

第32回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和4年1月14日（金） 14：00～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 2階第3会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】(敬称略)</p> <p>相宮 一夫 (岐阜乗合自動車株式会社取締役営業管理部長／代理：宮部 敬輔)</p> <p>大野 淳 (名鉄バス株式会社営業本部運行部運行課運行課長)</p> <p>渡邊 良成 (東海旅客鉄道株式会社鉄道事業本部企画課課長代理)</p> <p>平林 和博 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>山田 健太郎 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長)</p> <p>林 直樹 ((公社)岐阜県バス協会専務理事／代理：森 淳三)</p> <p>正村 明 (岐阜乗合自動車労働組合執行委員長)</p> <p>江頭 宏巳 (蘇原自治会連合会長)</p> <p>藪 雅彦 (那加自治会連合会長)</p> <p>清水 一成 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>小脇 幸子 (シニアクラブ連合会理事兼女性部会部長)</p> <p>清水 孝子 (八木山地区社協事務局長)</p> <p>伊藤 一智 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>中村 澄之 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>沢木 利勝 (岐阜土木事務所施設管理課長)</p> <p>小井戸 隆正 (各務原警察署交通課長)</p> <p>前田 寛徳 (岐阜県都市建築部公共交通課長)</p> <p>瀬川 利生 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>加藤 博巳 (㈱アイシン CSS カンパニービジネスプロモーション部部長)</p> <p>川端 光昭 (岐阜工業高等専門学校准教授)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部公共交通政策室</p>

・委員長あいさつ

・議事

- ①令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について
- ②ふれあいバス川島線「川島中学校前」停留所の廃止について

・報告

- ①岐阜バス「岐阜川島線」の廃止について
- ②岐阜バス「笠松川島線」の新設について
- ③チョイソコ実証運行1年目の実績報告及び評価について
- ④「ふれあいバス等懇談会」の開催結果について

・その他

- ①新型コロナウイルス感染症の市内公共交通への影響について

■委員長あいさつ

委員長（小鍋副市長） 挨拶

本日は、第32回各務原市地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
本来であれば、例年5月頃には会議が開催されるところですが、コロナの影響もあって開催ができず、本日ようやく皆さまにお集まりいただける会議を開催させていただきました。

議題としまして、2つの議事と4つの報告がございます。

川島地区における新しい路線の報告がありますが、ご承知のとおり川島大橋が通行止めとなり、現在復旧作業に入っています。近隣住民の皆様を含め、ご不便をかけているところですが、国の権限代行によって災害復旧として早期の復旧を目指しています。ただ、今しばらくこの状況が続くため、新路線における皆様の協力を非常にありがたいと考えているところです。

もう1つチョイソコかかみはらにおいては、1年目の実証運行が終了し、総括の報告があります。公共交通については、市長が強く思い入れを持って就任当初から事業を進めてきたところです。「2025年問題」が注目される中、今年から団塊の世代が75歳を超えてくる年がいよいよ始まろうとしています。まだまだ自分で運転できる元気な方がたくさんいるということは十分承知の上ではありますが、その方たちにも公共交通を知っていただいて使ってもらいたいと考えております。この10月から八木山地区の団地群にもチョイソコかかみはらを導入予定であります。実施することによる様々な反響があるかと思いますが、行政としてはそれらの声に応えられるように努めていきます。

持続可能な公共交通を目指して、評価や分析を行い、一生懸命やっていきたいと考えております。

それでは、今申し上げた内容も含めて、地域を支える移動手段として、各議事や報告事項の取組について、活発なご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

■議事

- ・議事① 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について

報告・意見

<岐阜運輸支局 伊藤委員>

国からふれあいバス蘇原線と東西線に補助を出しているため、補助の使い道として、どのようなことが行われているかを検証するために毎年評価を行っている。現在、コロナによる影響がある中でチョイソコにおけるイベント企画の開催や乗継拠点の向上、フレイルポスターの車内掲示などの取組を行っており、素晴らしいと思う。

また、自己評価を本日の会議で承認いただき、その結果を受けて国で2次評価といった流れとなる。次回年明けの会議にて、評価の結果を公表したいと考えているため、継続的に取り組んでほしい。

- ・議事② ふれあいバス川島線「川島中学校前」停留所の廃止について
特に意見等なし。

■報告

- ・報告① 岐阜バス「岐阜川島線」の廃線について
- ・報告② 岐阜バス「笠松川島線」の新設について

報告・意見
<p><岐阜乗合自動車㈱ 宮部委員（相宮委員代理）></p> <p>バスの利用者はコロナの影響により大幅に減少している状況ではあるが、市の補助金を活用しながら令和4年4月に向けて新路線を予定している。現在は、岐阜運輸支局への申請中である。実証運行ということではあるが、なるべく路線を維持していきたい。地域の皆様にご利用いただけるよう努めていく。</p>

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><岐阜工業高等専門学校 川端委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運行経路図の停留所について、「松波総合病院」が新設とあるが、今までは停留所の設置がなかったのか。 ● 既存の停留所の上屋の整備等、待合環境の整備について何か検討していることはあるか。 	<p><岐阜乗合自動車㈱ 宮部委員（相宮委員代理）></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 岐阜バス路線としては、今までになく新設の停留所となる。 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 待合環境については、個別の停留所については現状計画していない。今回も松波総合病院への乗り入れを検討しているが、施設への乗り入れや駅前の整備等、拠点となる停留所から整備していくことを検討している。
<p><各務原市議会 瀬川議員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 笠松川島線のダイヤと県庁笠松線のダイヤを見ると、市岐阜商業高校や岐南工業高校や総合学園高校に行きたい場合、笠松川島線から県庁笠松線には乗り継げないが、調整できないのか。 	<p><岐阜乗合自動車㈱ 宮部委員（相宮委員代理）></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 笠松県庁線については、4月1日にダイヤ改正を予定しており、乗継ができるようになる。 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ダイヤの検討にあたり、特に1本目は鉄道への乗り継ぎや病院の診療時間に合うよう市からも要望を行い、受け入れてもらっている。

- ・報告③ チョイソコ実証運行1年目の実績報告及び評価について

報告・意見
<p><岐阜交通東部㈱ 石井委員></p> <p>コロナ禍であり、利用者登録が伸び悩んでおり少なかった。しかし、お出かけ促進を通じて、徐々にチョイソコの理解度が高まり、利用者等による口コミの力で広まっている。実証2年目に入り利用者が増えているという話もあるため、コロナが落ち着いたら、お出かけ促進や周知の声掛けをいただければ増えていくのではないかと考える。</p>

<㈱アイシン 加藤委員>

チョイソコは、現在毎日走っているところという意味では全国 26 か所で導入されている。実証実験を行ったところが、継続的に運行していることが重要であり、チョイソコは全ての地域で運行が続いている。コロナの影響により、お出かけのコトづくりが難しい社会情勢ではあるが、他の自治体も含めて少しずつ復活してきた中で、これから会員募集等をもっと進めていきたい。

<八木山地区社協 清水委員>

八木山地区にもチョイソコが走るということで、好評なものが導入されるのはありがたい。八木山地区にも、お出かけがよくできるようになるという希望がわき、地区に戻ったら伝えたい。

また、チョイソコは通信を作成し配布していて、中身も魅力的であると思う。お出かけの機会を作っていてイベント講座を開催しており、地区でも真似して実施しようと考えている。

- ・報告④ 「ふれあいバス等懇談会」の開催結果について

報告・意見

<蘇原自治会連合会長 江頭委員>

市では、人が集まるイベントも多くあるが駐車場が十分に確保できない場合がある。イベントの際に、臨時でふれあいバスを出してもらえるとイベントに参加しやすい。

<鶴沼自治会連合会長 清水委員>

自分で車を運転しているため、公共交通について今まで知らなかった。いずれは免許証を手放すこととなるため、今回知れてよかった。これから自動運転等、技術面も変わっていくと思うが、もっと宣伝をして取組がみんなに知れ渡るといいと思う。知れば需要が増えると思うため、宣伝面での活性化をしてほしい。

<シニアクラブ 小脇委員>

自分で車に乗るため、ふれあいバス・ふれあいタクシーには一度も乗ったことがない。各務地区は非常に不便であり、せめて東海中央病院までは乗継なしで行けるようにしてほしい。

<八木山地区社協 清水委員>

懇談会には、地域住民の中で勝手な意見を強く訴える人もいる。市の話を知ると、市や交通事業者が懸命に努力して実施しているのが分かる。住民は限りなく 0 円に近く短距離・短時間で移動したいと要望を述べるが、地域全体を考えると全員が使えるように考えるのは難しい。懇談会に参加することで、市の取組が分かるため、懇談会に参加するよう呼び掛けている。

■その他

- ・新型コロナウイルス感染症の市内公共交通への影響について

報告・意見

<東海旅客鉄道(株) 渡邊委員>

名古屋近郊で上期はコロナ前と比べて3割減程度となっている。秋以降も、厳しい状況が続いている。安全安定輸送を最優先にご利用いただけるような車内環境作りに努めている。車内換気や消毒等に心がけ、営業面では「ずらし旅」や「押し旅」など観光面に力を入れている。人口減少や働き方改革、出張の見直しなどもあり、コロナ後も以前のような利用には戻らないと感じているが、観光面では新幹線や高山を中心に力をいれていきたい。ダイヤ改正により中央線に1部列車増加、新型車両の導入予定もある。なかなか収入が増えないが、効率化や低コスト化で支出を抑える努力をしている。

<名古屋鉄道(株) 平林委員>

10月・11月から通学通勤の利用者が戻りつつあり、年末年始は初詣等の利用により昨年よりは増加したが、コロナ前には戻っていない。テレワークやオンラインの普及により、完全にコロナ前に戻るとするのは難しいため、業務効率化や業務削減を行っている。お客様あつての鉄道であるため、消毒・換気・車内でのPR放送を引き続き実行していくとともに、従業員についても体調管理・検温消毒を徹底していきたい。

また、京王線の殺傷事件のような事件への対策として、地元警察と協力してどうしたら対応できるかの訓練を実施し、安心してご利用いただけるように努めている。

<岐阜乗合自動車(株) 宮部委員 (相宮委員代理) >

直近の路線バスは8割程度の輸送人員、高速バスは5割程度である。通勤通学の定期利用者は戻ってきたが、不要不急の外出を避けていたり土日のイベントが中止になったりしていることが影響し、現金利用者が減っている。コロナ対策としては、消毒換気・飛沫防止カーテンの設置・対策のPR活動を行っている。利用促進としては、昼の利用を増やすための「昼得きっぷ」やモバイルチケット、観光庁の補助金を利用した謎解きイベントや周遊ツアーなどを実施している。今後の方針としては、学生の通学に特化した定期券を設定したり、アフターコロナにあわせたダイヤ改正をしていきたい。

<名鉄バス 大野委員>

コロナ前と比べて、6割~7割となっている。今年に入って7割~8割まで戻ったが、現在は減ってきている。特徴としては、午後9時以降運行する便のお客様が極端に減ったこと、中間帯のお客様の現金利用が減ったことが挙げられる。テレワークやオンライン授業が定着したので、コロナ禍前の状況には戻らないと考える。コロナに対応する需給調整という意味のダイヤ改正を行っていきながら、ある程度ダイヤを減便してでも足の確保のために路線を維持していきたい。ご利用を頂くうえで安心して乗っていただくため、消毒や車内換気を実施している。

<県バス協会 森委員 (林委員代理) >

岐阜県のバス協会に加盟する会社は現在53社である。乗合事業者・観光バス専業などいろいろあるが、乗合バス部門についてはコロナ前の8割回復している。同じ岐阜県内であっても、観光客の多い飛騨地区や東濃地区になると低くなる。貸切バス事業者については、コロナ前の30%、第5波の際は0%の会社もあり、非常に厳しい状況である。協会においても、2社脱退(休業や岐阜県からの撤退)。そういったことがないように、国土交通省をはじめとし、様々な機関より支援をいただいている。非常に厳しい状況がしばらく続いていくが、業界としても、感染予防対策に力をいれて、安全性の担保に力をいれていきたい。コロナが落ち着いたなら、ツアー等貸切バスのご利用を併せてお願いしたい。

<岐阜交通東部(株) 石井委員>

利用者は、一番減ったときには7割減少。11月・12月とコロナ前の8割まで回復してきたが、乗務員が2割ほど辞めてしまい、厳しい状況にある。タクシーはアルコール消毒の設置や窓を開けての換気に優れており、タクシーを通じてのコロナ感染事例はほとんどない。国土交通省の規制緩和により、事前確定運賃やお客様が乗り合って乗車できる相乗りタクシーを認めてもらっているため、利便性向上をすすめていきたい。現在PCR検査や陽性患者を病院にお運びするコロナ専用車を用意し、輸送のお手伝いをしている。

また、市が実施するキャッシュレス決済キャンペーンにて2割還元対象事業者となっているため、この機会にタクシーをお得に利用いただきたい。

<岐阜県タクシー協会 山田委員>

タクシー業界も非常に厳しい状況にあり、乗務員不足も危惧している。コロナ対策には、タクシー業界全体として力を入れており、タクシーでの感染事例は確認されていないので安心して利用いただきたい。今後ともデジタルを含め、ITの企業の力を借りてこれまでにないサービスを提供していきたい。

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><八木山地区社協 清水委員></p> <ul style="list-style-type: none">● コロナ専用車両の話があったが、熱があった場合、タクシー事業者に輸送をお願いしてもいいのか。	<p><岐阜交通東部(株) 石井委員></p> <ul style="list-style-type: none">● 保健所を通して、タクシー協会岐阜支部に要請をいただくまたは個人で予約していただければ利用できる。ただし、運賃は一般のタクシーと異なる。

・岐阜運輸支局より

報告

<岐阜運輸支局 伊藤委員>

1月13日の中部運輸局プレスリリースについて報告。コロナ対策について周知するピクトグラムを作成した。ウェブサイトからデータのダウンロードも可能なので、交通事業者や自治体にぜひ活用していただきたい。

■総括

川端先生 総括・指摘事項

公共交通をとりまく現象は厳しいものである。外出機会が抑制される中で、大打撃を受けている。公共交通を守っていくためには、短期的にはお金の問題が一番大きく、補助金をどう当てていくか等も大切である。一方で、中長期的にはまちづくりという観点からどのように作っていくのかについて議論することが必要だと考える。今回の会議内でも認知度が高くないことが取り上げられていたが、できたものを知っていただくことも大切であるが、そこに至るまでのプロセスを知ってもらうのが重要であり、公共交通会議の役割であると考えます。